



六月の晦日、恒例の夏越の大祓（おおはらえ）並びに茅の輪くぐりの神事を斎行します。

夏越の大祓のご案内

「茅の輪くぐりの神事」

夏越の大祓とは

大祓神事の歴史は古く、古代の法律書「延喜式」（九二七年）に記載され、古代豪族の中臣氏が司る宮中行事でもありました。

人が生きる上で知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを取り除き、災厄を避け心身を清らかにすることを目的とした神事です。毎年六月の晦日、十二月の晦日の年二回行い、半年ごとの

罪穢れをお祓いします。わ



初夏に奉仕会の有志が秦野盆地の山に赴き茅を切り出し、それをシユロ紐で結びつけ人がくぐれるほどの大きな茅の輪を作成します。これが大変難しく茅の具合や締め付ける強さなど細心の注意をはらう必要があり、均一な太さに編み込むには熟練の手技が必要とされます。

古来我々の先祖は、毎年六月晦日と年末の「大祓」によつて心身を清浄にし、新しい半年の幸せを祈願しました。一層の「幸せ」のご縁をお授かりになりますよう案内申し上げます。

大祓神事の際、茅の輪くぐるには、必ず左右左と三周廻り、古式豊かな抑揚で和歌を唱えることが作法とされます。

「思ふ事みなつきねとてあきの葉をきりにきりてもはらひつるかな」

二周目

「宮川の清き流れに禊せば祈ることの叶はぬはなし」

三周目

兄弟のところで宿を求めたところ、弟の巨旦将来は裕福であったにも関わらず宿泊を拒んだのに対し、兄の蘇民将来は貧しいながらも喜んで厚く饗しました。その数年後、再び蘇民将来のもとを訪ねた素盞鳴尊は「もし悪い病気が流行ることがあつた時には、茅で輪を作り腰につければ病気にかかりない」と教えられました。

なんで茅の輪をくぐるの?



から皆様ご唱和頂くので安心してご参加頂けます。年々参加者も増え、日数回数を増やして大祓の神事に取り組んでおりますが、多いときは社殿に入りきれないほどの盛況ぶりです。当日参加の方はお早めに受付をお済ませ下さい。



茅の輪くぐりの作法



【郵送される場合】ご参列叶わない方は郵便振込にて御祈願料を添えてご送金下さい。後日記念の縁起物を発送します。

【当日不参加の方・郵送される場合】ご参列できない方は事前にお預かりの上授与品をお渡しします。人形・車形・玉串料を封筒に入れてご持参ください。

【大祓神事の際、身代わりとしてお清めし、後ほど忌火をもつてお焚き上げします。】

七五三のお祝いとは、子どもたちに元気に育つてほしいとお祈りし三歳、五歳、七歳と成長する様をお祝いする儀式です。

七五三とは三歳の男女の「髪置き」、五歳男子の「袴着（はかまぎ）」、七歳女子の「帯解き」のお祝いを指す「三歳・五歳・七歳の三つの祝い事をまとめて「七五三」と呼びます。

人形・車形の使い方

古くより禊や祓をする時に人間の身代わりとして人形を用いてきました。当分祠では夏冬の大祓の際に、人形（ひとがた・車形（くるまがた）を形代（かたしろ）にして自らの罪穢れを移し祓いします。人形の紙に氏名を記入し、息を三回吹きかけ、頭から全身気に入る場所を撫でこすり、悪い気を取り移してお祓いします。

江戸時代初期になり、大きな茅の輪をくぐつて罪や災厄をお祓いします。身近な場所や玄関先や神棚にお飾り下さい。

※出雲記念館にて着付け・記念写真など絶賛受付中

◆耳寄り情報
十月より境内に期間限定で
《七五三限定記念写真スポット》
《祝い太鼓》を設営します。
(無料)

◆祈祷受付時間
八時四十分～十六時三十分
(事前の予約は不要) (混雑時を除き人数制限なし・おじいちゃんおばあちゃんも昇殿可)

◆御祈願料
一万円・七千円・五千円
お子様の授与品として福袋(おもちゃ入り)・御守・千歳飴を授与。一万円以上「神話芝居」授与。

七五三（帯直し）は暦の上では通常十一月十五日といわれますが、九月下旬から十二月中旬までの期間で来られる方が多いです。

御都合のよい時期にお越し下さい。それ以外の時期はお問合せ下さい。



七五三詣のご案内